

陰嚢（いんのう）水腫とヘルニアとは？

陰嚢水腫とヘルニアは、あらゆる年齢で見られる一般的な外科的問題です。ヘルニアの徴候の一つとして、子どもの鼠径（そけい）部や、男児の場合は陰嚢に膨らみが現れることがあります。ヘルニアは男性において、より頻繁にみられます。ヘルニアとは、お腹の中の臓器が鼠径部や陰嚢に入り込み、触知できる状態のことをいいます。男児では、その臓器に腸が含まれることがあります。女児では、それらの臓器のほかに卵管や卵巣が含まれることがあります。陰嚢水腫とは、精巣の周りの陰嚢内に液体がたまる状態です。

妊娠中期ごろ、男児では腹部から陰嚢へ精巣が移動するときに、腹部と鼠径部をつなぐ通り道が形成されます。この通り道は通常、赤ちゃんが生まれる前に閉じます。この通り道が閉じない場合に、ヘルニアや陰嚢水腫が生じることがあります。「交通性陰嚢水腫」とは、腹部からの液体が陰嚢に行き来する状態です。これは、間接型鼠径ヘルニアに似ており、腸などの臓器がその通路を通っている状態を意味します。解剖学的な観点で、子どもの場合では、これらは本質的に同じものです。成人では、ヘルニアと陰嚢水腫は別の疾患です。

単純陰嚢水腫は出生時によく見られ、液体が陰嚢内にたまっているものの、通路は閉じている状態です。ほとんどの場合、生後1年以内には自然に治ることが多いです。

陰嚢水腫やヘルニアの症状はどのようなものですか？

陰嚢水腫があると、痛みを伴わない膨らみが鼠径部や陰嚢に見られることがあります。交通性陰嚢水腫やヘルニアでは大きさが変化し、赤ちゃんの場合は泣いているときに、年長のお子様の場合は歩いているときに大きくなることがあります。お子様が寝ている間や静かにしているときには、その膨らみは小さくなります。陰嚢水腫やヘルニア自体は通常痛みを伴いません。ただし、乳児が痛みを感じる場合もあります。このようなとき、赤ちゃんがいつもより機嫌が悪く、よく泣いたり、足をお腹の方へ引き寄せるしぐさを見せることがあります。また、幼児や小児では、夕方から夜にかけて陰嚢の膨らみが大きくなっていることに気づく保護者の方もいます。

交通性陰嚢水腫は精巣に害を及ぼすことはありませんが、時間とともに大きくなつてヘルニアに発展する可能性があります。鼠径部に膨らみが見られる場合、腸などの臓器の一部がその通り道に入り込んでいる可能性があります。腸などが押して元に戻せる場合（これを「整復可能なヘルニア」といいます）、緊急な状況ではありません。ただし、腸などが詰まって元に戻せなくなった場合は、「嵌頓（かんとん）ヘルニア」という状態になります。この場合は速やかに治療する必要があります。お子様が嘔吐し始めたり、痛みが強くなったり、鼠径部や陰嚢が黒っぽく変色したり、熱や下痢がある場合は、ヘルニアが絞扼（こうやく）ヘルニアになっている可能性があります。絞扼ヘルニアになると、腸閉塞や、腸管の血流生涯を引き起こす可能性があり、緊急の治療が必要になります。

ときどき、両側にヘルニアまたは交通性陰嚢水腫が発生する「両側ヘルニア」が見られることがあります。両側が同時に現れることもあれば、片側ずつ別々の時期に現れることもあります。

陰嚢水腫／ヘルニアの治療法は何ですか？

単純な陰嚢水腫の場合は、医師がお子様の状態に変化がないか経過観察をするだけになります。交通性陰嚢水腫や鼠径ヘルニアがある場合は、お子様は手術が必要になります。お子様に痛みがなく、ヘルニアが押して戻せる場合は、緊急ではなく選択的手術として、双方で合意した日時に手術を計画することができます。ヘルニアが押して戻せなかったり、お子様が痛みを感じているような場合は、できるだけ早く手術が必要になることがあります。

手術は全身麻酔の状態で行います。乳児や幼児には、起きている間に痛みを感じるような処置はしません。幼児の場合は、マスクから吸う麻酔ガスで眠らせます。年長および十代のお子様は、手術前の待機エリアで点滴を始めます。麻酔について心配される保護者の方は多いですが、生後数か月を過ぎた健康なお子様であれば、小児専門病院での麻酔はとても安全ですので、ご安心ください。

一般的に、片側のヘルニアの手術時間は約1時間です。手術は外来で行われます（入院は不要で、当日病院に来て手術を受け、その日のうちに帰宅できます）。鼠経部（ベルトラインの下）に約1インチの切開を入れ、皮膚の下は溶ける糸で縫います。外科医によっては、おへそに小さな穴を開けるキーホール手術や、腹腔鏡手術を行うことを選択する場合もあります。

この手術は成功率が高く、合併症などのリスクもとても少ないといわれています。ほとんどのお子様は手術後に軽い痛みしかありません。術後の痛みをやわらげるために、切開部分にはノボカイン（Novocaine）などの麻酔薬が使われます。術後数日間の痛みの管理には、市販の鎮痛薬であるアセトアミノフェン（acetaminophen）やイブuproフェン（ibuprofen）だけで十分です。鼠経部や陰嚢に少し腫れが出ることはごく一般的です。腫れは通常1～2週間ほどで自然に消えます。

[H3]手術後のケア/[H3]

ヘルニアや陰嚢水腫の手術後は、切開した部分にダーマボンド（Dermabond）という透明な接着剤のような包帯が貼られます。おむつはこまめに替えて、切開部をできるだけ清潔かつ乾いた状態に保ってください。切開した部分に便がついてしまったときは、温かい濡れタオルなどでやさしく拭き取ってください。ダーマボンドは徐々に自然にはがれ落ちていきます。

以下は一般的な指示ですが、担当外科医の判断で変更される場合があります：

- 手術後5日間は湯船につからないでください。
- 手術後4週間はまたがり型の遊具に乗ったり、砂場で遊ぶのを避けてください。
- 学齢期の年長のお子様は、手術後4週間は学校での体育や他者と接触するような激しい運動、およそガロン瓶の牛乳1本分以上の重い物を持ち上げることを控えてください。なお、この制限はお子様の年齢や担当医の判断によって変更されることがあります。
- 手術後5日目から保育園や学校に戻ることができます。

担当医にはいつ連絡すればよいですか？

次のいずれかの症状が見られた場合には、ただちにお子様の医師に連絡してください：

- 手術後2~3日経っても陰嚢やそけい部の腫れが悪化している場合
- 手術後2~3日経っても痛みや機嫌の悪さが続く場合
- 切開部からの分泌物や出血がある場合
- 嘔吐が24時間以上続く場合
- 101.5°Fを超える発熱がある場合
- 下痢

Last Updated: 11/2024 by Dr. W. DeFoor, Urology